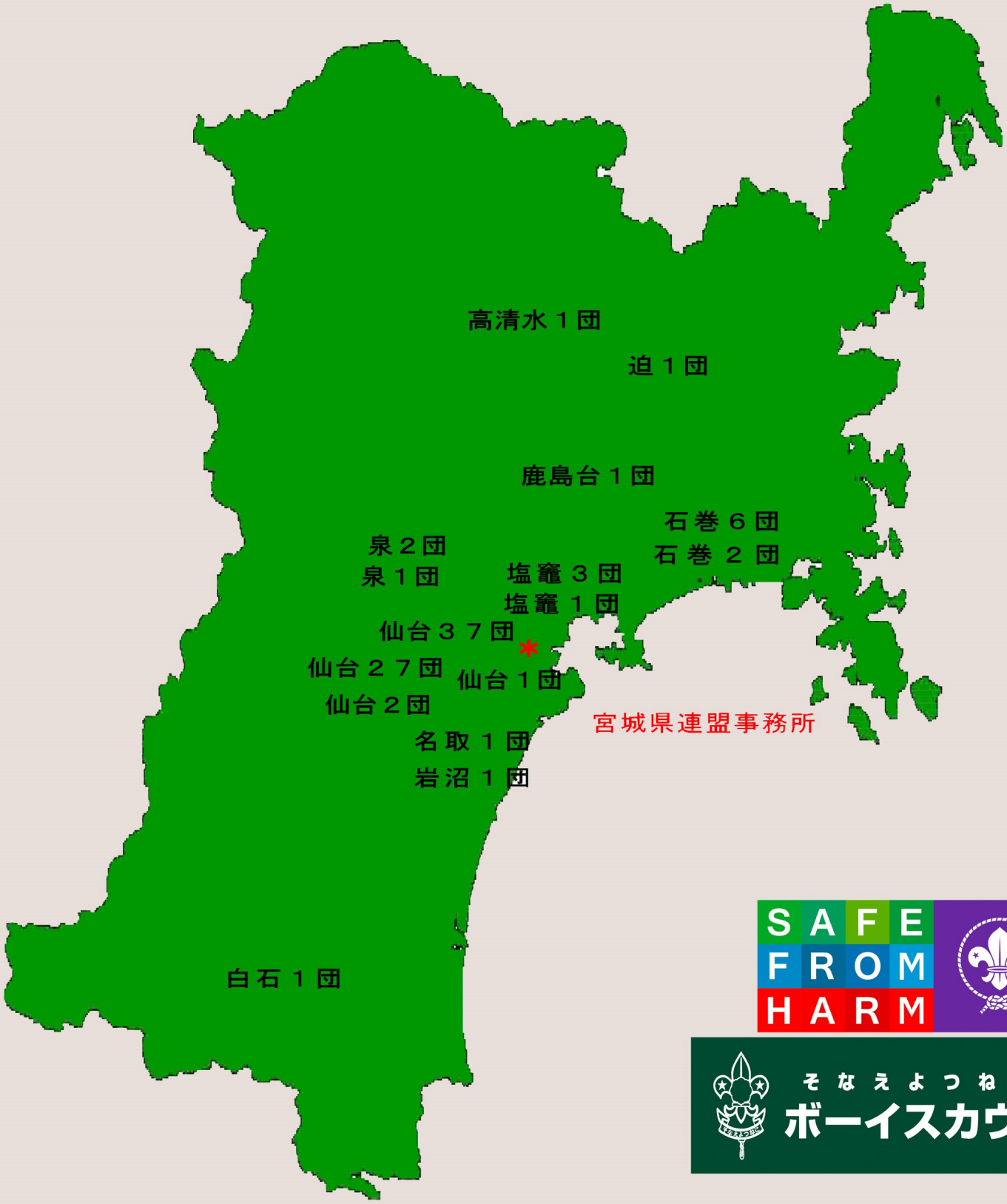
スカウトみやぎ

２０２０／１２．１
ＮＯ．５３



SAFE FROM HARM

そなえよつねに
ボーイスカウト

団紹介 白石第１団、仙台第１団、仙台第２団、仙台第２７団

【白石第１団】

わたしたち白石第１団は、ビーバーからローバーまでの５つの隊があります。昨年度、市内の小学生向けに野外体験活動を実施したことで新しい仲間も増え、より賑やかに活動しています。

主な活動としては、各隊ごとの隊集会のほか、市内の春・夏祭りでの奉仕活動、春と秋に行われる沢端川の鯉の保護活動など、さまざまな形で地域へと貢献しているのが特色です。ジャンボリーなど、各地で開催されるスカウトの大会にも積極的に参加しています。

今年は新型コロナウイルスの影響で、活動の機会が大きく減ってしまいましたが、子どもたちは限られた機会の中で元気いっぱい活動しています。これからも温かく見守ってくださると幸いです。

【仙台第１団】

一昨年に仙台第1団は、団創設70周年を迎えたと思ったら、早くも二年が過ぎようとしています。かつて多くの登録人数を数えていましたが、現在はBVS11名、CS18名、BS16名、VS３名、RS５名指導者20名、団委員10名、SC５名の88名の構成です。

毎年、途中退団や親の転勤で移籍していくスカウトが数名おりますが新たに移籍してくるスカウトや新規入団者もいますので、年度末では微増の結果が得られています。途中退団者をどう防いでいくことがこれからの課題となっております。

活動においてはBVS予備軍を大切に、入隊につながるよう工夫しております。VSにおいては他団との合同集会、フォーラムや全国大会に積極的に参加しております。

後輩スカウトたちにはその姿を見習いながらスカウト活動を続けてもらいたい。その思いをもって、育成会・団ともにこれからもスカウトを支えて行こうと考えております。

ボーイスカウト仙台第１団 創設７０周年記念 団キャンプ

【仙台第２団】 発団しました！

１年以上前より発団に向け会合・準備を積み重ねてきました仙台第２団が４月１日に日本連盟より団として認証され、発団の運びとなりました。残念ながら、新型コロナウィルスの影響で２ヶ月遅れとなりましたが、念願の活動をスタート致しました。

６月７日に行われた入隊式には、ビーバー隊からローバー隊までの隊員が揃い、あらためて新団への結集を誓うとともに、コロナで数ヶ月会えなかった間に想像以上に成長したスカウト達と笑顔を交わしました。

ボーイ隊は９月19日、コロナ対策を万全にした上で、仙台第２団初となる2泊3日のキャンプを青葉山にて敢行しました。日中には、新しく増えたビーバー・カブの仲間や見学者も集まり、久々に子供達の声が山中に響きました。

これからもさらに仲間を増やして、大きな団に成長できるよう頑張りますので、よろしくお願いします！

【仙台第２７団】

ボーイスカウト仙台第27団は、仙台市青葉区大崎八幡宮を活動拠点とする神社スカウト団。令和2年10月現在、団員は指導者6名スカウト5名の11名です。

活動の特徴としては、神社スカウトとして大崎八幡宮のイベント新年の祈祷、餅つき、例大祭やチャリティ出店などの他、地元イベントへの参加・見学など地域に根ざした活動に参加しております。（今年は新型コロナ感染症対策の自粛のため、神社関係の行事にかかわる活動ができなかったことが残念です。）

また、県内施設での泊りがけの野外活動や、社会見学、オリエンテーションやハイキングもメイン活動のひとつです。

小規模ながらも、のびのびとした雰囲気で、スカウトの自主性や好奇心を刺激する、枠にとらわれない自由な団を目指し活動を続けています。

①漁業体験　②東松島大高森山ハイキング　③B-P祭　④救助訓練

団紹介 仙台第37団、名取第1団、岩沼第１団、泉第１団

【仙台第３７団】

2020年で発団50周年を仙台第37団は迎えました。スカウト8名（ビーバー1名、カブ2名、ボーイ1名、ベンチャー1名、ローバー4名）と小規模ですがスカウト達は進級に向け各課題に取組んでいます。

50周年記念行事としてオーエンス泉岳自然ふれあい館で9月21日(月)～9月22日(火)の連休にガールスカウト宮城第4団と合同で記念キャンプを行いました。泉ヶ岳登山のプログラムでは水神迄登り、登りきったという満足した表情をするスカウトを見ることが出来、皆、嬉しい気持ちを共有する事が出来ました。もう一つニュースがあります。今年度2名新しい仲間が入りました。仲間をもっと増やして、活動の楽しさを伝え60周年に向けてスカウト・指導者共に飛躍します。

【名取第１団】

名取第１団は、名取の地域団として昭和43年に発団して以来、50余年の歴史を常に地域とともに歩んできました。山、川、海、里山など変化に富んだ名取市すべてを活動範囲として、市内全域から種々多様な団員が集まって人と人との様々な繋がりが生まれています。

さて、初団10周年を迎えて結成されたカブ隊の鼓隊は、市の祭り等で毎年鼓隊演奏をお披露目していますが、先日行われた閖上サイクルスポーツセンター開業記念式典でも演奏を行い多くの市民の皆さんから好評をいただきました。

おおらかで包容力があり、どのスカウトにも惜しみなく愛情を注ぐ、名取1団はそんなコミュニティーです。

【岩沼第１団】ニューノーマルの隊集会「LINE」ビデオ通話集会

「♬～ つ～う～き～のぉ～わ～（月の輪）♪ うぉ！うぉ！うぉ～ こんにちは！！」

不要不急の外出、密になる活動、飛沫防止として歌うこと、仲良しの輪をすることが自粛されているこのコロナ禍に、元気にカブコールから始まる隊集会。

いつも通りの集会を進めるが、多少の違和感があるのは、スカウト達が画面の中で微笑んでいること。今回は隊集会事前準備としてオンライン集会をスマートフォンの「LINE」ビデオ通話でおこなった。

オンライン集会はパソコンを利用してのWeb会議（集会）が一般的だが、各家庭によって環境がさまざまのため、画像・音声の乱れ・通話不通などが起りやすい。そこで扱いやすい携帯電話・スマートフォンを利用してみた。カブ隊スカウト3人、指導者2人での「LINE」ビデオ通話は、予想どおり問題なく実施することができた。

マスクを外して大声でソングを歌うことから始まった集会。画面越しに行ったジェスチャーゲーム。スマートフォンサイズの画面だが十分に行うことができた。

オンライン集会を行ってみて、自宅からの参加による移動時間の削減、カブ年代でによるも夕刻以降の時間(18時～)安全に集会を実施することができる良さがありそうだが、保護者のご理解とご協力は欠かせない。

また、集中した集会を実施するため、日常生活のインフラアイテムである携帯を集会時間占有・借用しないよう短時間で実施。傍聴のみにならないように。そして、話す機会を均等に与えることも大切な要点だ。

実施後、スカウトたちの感想は携帯でのビデオ通話が目新しかったのか、“楽しかった”、“面白かった”、“また実施したい”との声があった。スカウト教育法の要素の一つである「自然の中での活動」により、本来屋外での活動が望ましいが、このコロナ禍でも元気に楽しく活動できる手法としてこのオンライン集会を積極的に活用していきたいと思う。

今回、カブ隊の集会として実施したが、今後は県内の他隊をはじめ東北地方の隊、日本全国の隊、そして世界中のスカウト達とこのオンライン集会を実施し交流をしていきたい。これからもウィズコロナとして活動を止めることなく知恵を絞って対応をしていく。それらがスカウティングのニューノーマルとなるように。

【泉第１団】

私たちの団は今年10月で発団44年目を迎えます。活動拠点は仙台市泉区や富谷市を中心に活動しております。団の構成ではBVS隊(18名)･CS隊(17名)･BS隊(19名)･VS隊(4名)･RS(1名)、団委員、指導者(20名)の総勢79名の母体となっております。

各隊の活動として、BVS隊は酪農体験やデイキャンプ、CS隊は自然の家での舎営やサイクリング、BS隊はカヌーや登山、釣り、キャンプなど世代に合せて楽しめるようなプログラムを展開しております。

また、団行事では新春の集いでの餅つき大会や正月ゲームで遊んだり、秋にはオーバーナイトハイクとして夜間に長距離も歩きます。年一度の団キャンプでは海釣りやスキーを行っております。これからも団の結束と共にスカウトの笑顔をモットーに！

団紹介 泉第２団、塩釜第１団、塩釜第３団、鹿島台第１団

【泉第２団】

救世スカウト泉第2団として生まれたわが団は、2017年に40周年をむかえました。

ここ数年、スカウトの激減、長期に渡っての指導者不足など取り巻く環境は厳しいものがあります。

まだまだ社会全体が男性中心のなか、団の現役世代の指導者は女性だけという他団にはない魅力があります。

現在はカブ、ボーイ、ベンチャーの3隊、特にカブ隊は1名というスカウト数にも関わらず、団の特色の一つであるアットホームなあたたかい雰囲気のなかで活動を進めています。

スカウト数が少ないため本来のスカウト教育が出来ない状況にありますが、すこしでも近づけるよう創意工夫をし、各隊が協力し合いながらさまざまな活動に取り組んでいこうと考えております。

【塩釜第１団】

ベンチャーグループプロジェクト　＝140年の時を駆ける冒険の旅へ出発だ！＝
（先輩たちが作ったカヌーの再生と、１４０年を迎えた幻の野蒜築港跡を目指して）

令和２年８月29日私達ベンチャー隊は、東松島市大曲に集合しました。昨年９月から約半年かけて修復した30年前の先輩たちが作ったカヌーで冒険の旅へ出るためです。進水式では村上団委員長と鹿島台の安倍団委員長から御祝の言葉をいただき、思い出の17NSJでサイトに掲げていた大漁旗まで飾ってもらいました。

この素晴らしい進水式を終えた後、私はカヌーを出発させました。カヌーで進んだ北上運河は東日本大震災で甚大な被害を受け、現在も復旧工事が進められています。運河にはまだ撤去されていないガレキや流木が多数あり、その間を縫うように6kmの距離をカヌーで漕ぎ進みました。ゴール地である幻の野蒜築港跡は、昨年築港140年を迎えた歴史ある場所です。

このゴール地で仲間のスカウト達も楽しくカヌーの乗船体験をすることが出来ました。このプロジェクトは新型コロナウイルスの影響もあり、冒険の旅へ出るまでに約１年かかりましたが、仲間のスカウトや保護者の方々の協力があったからこそ事故も無く無事に終了することが出来たと思っています。そして私にとってこのプロジェクトはベンチャー隊での忘れることの出来ない経験の一つとなりました。

【塩釜第３団】

塩釜3団は、昭和41年5月16日塩釜聖光教会のリビングストーン牧師によって産声を上げ、発団54年を迎えました。育成母体の教会から協力を頂き、利府聖光幼稚園の広大な敷地を使用し、凧揚げ　流しそうめん銀杏拾い等季節の変化を感じながら活動しています。教会学校の子供たちと一緒に病院や老人施設への慰問やキャンプを行い、盛大なクリスマス会では他の団体・個人の方々とも年齢を超えて交流があります。地域との接点も多く、地元塩釜神社での御田植祭　初穂曳き　境内清掃等年間を通して奉仕活動に参加しています。様々な活動を通して、地域とともにスカウトを育成してきた塩釜3団ですが、近年のスカウト数の減少に加え今年のコロナ渦で活動の制限を余儀なくされました。大変な状況ではありますが、宮城県沖地震や東日本大震災を乗り越えてきた団結力で、塩釜3団らしく来年の55周年に向かって進んでいきたいと思います。

最後に、我が塩釜3団には団歌があります。連盟歌と共に　集会で歌い大切にしてきました。

『宮城野の郷』　宮城野の郷に　ぼくたちは生まれた　助け合う心を　さだめとして
愛をはぐくみ　どこまでものびよ　はばたけ　ぼくらの塩釜3団

これからも感謝の気持ちを忘れず歌い継いでいきたいと思います。

【鹿島台第１団】

鹿島台第１団は1968年（昭和43年）に鹿島台ライオンズクラブのご支援をいただき「宮城第416団」として創立され、本年度で満52年を迎える地域団です。

本団は、大崎市鹿島台を中心に、恵まれた自然環境の中、地域の皆さまの御理解、御協力をいただきながら、団キャンプ、1級挑戦キャンプ、鹿島台互市での募金活動、オーバナイトハイキング、新年餅つきキャンプなどスカウト一人ひとりが笑顔で元気いっぱいに活動しています。また、自分たちで植えたサツマイモなどを自分たちで収穫し、美味しくいただく活動も行っています。

普段、土に触れる機会が少ないスカウトにとって貴重な経験になっており、生涯にわたり続く基本的な営みである「食」を学んでいます。

さらには、様々な機会を捉えて地域への奉仕活動も行っています。今年のスカウトに日には、団を挙げてＪＲ鹿島台駅の待合室の清掃を行いました。「駅」という公共の場で一般の方々に見られながらの活動はスカウトたちにとってとてもいい経験になっています。

鹿島台第１団では、コロナウィルスの感染防止に留意しながら、野外での活動を通じて社会に貢献できる人材の育成を目指して活動しています。

団紹介 石巻第２団、石巻第６団、高清水第１団、迫第１団

【石巻第２団】

当団の前身は、昭和36年7月から39年3月まで、石巻市門脇地区に存在した宮城第408団である。
その後、10年近くの休団を経て昭和48年2月12日(1973年)宮城第408団として再発団しました。
そして、昭和55年(1981年)に宮城県内で地区編成がされ団号が石巻第2団に変更され今に至ります。令和5年で50周年を迎えようとしております。

当団のVisionは
①純粋なる伝統の継承とNewProjectの追求。
②スカウト数増大～多くの少年少女に スカウト活動を。
③石巻第2団の永続的成長とプレゼンス向上。
です。
教育のモットーは
「挨拶ができること。」
「約束を守ること。」とし、ビーバーからローバーまでの各隊は、能動的に活動を行なっております。

【石巻第６団】

石巻第６団の創立は昭和50年（1975年）、今から45年前に遡ります。
当初はカブ隊一隊でのスタートでしたが、スカウトの成長と共に隊を増やし、昭和53年の第７回日本ジャンボリーにはボーイ隊から２名のスカウトが参加。次の南蔵王で開催された８ＮＪにはシニアー隊（当時）も参加しました。
現在はビーバー隊からローバー隊までスカウト25名、指導者23名、団委員10名で活動を続けています。
太平洋に臨む石巻。北上川の流域と後背に広がる丘陵地帯からなるフィールドは多彩で、低山ハイキング、離島キャンプ、ウォ―ター―スポ―ツなど、年代に合わせ楽しく取り組んでいます。中でもオーバーナイトハイクは昭和55年から続く年に１回の恒例行事で、現在はボーイ隊の佐藤早苗隊長を中心に、 毎回のテーマに沿った20kmほどのコースを設計し、スカウトスキルを活用しながら達成感のあるナイトハイクを実践しています。

【高清水第１団】

高清水第1団は、昭和31年宮城栗原第2隊として発足。その後宮城402団、高清水第1団と名を変えながら、多くのスカウトを社会に送り出しております。
現在、カブスカウト隊 隊員3名での隊編成と少ない状態ですが、迫隊と合同で楽しい活動を続けております。
年始めに開催する「隊旗開き」は、40年以上続く特別の行事で、コマ回し、凧あげ、かるた取り、餅つきなどを行います。
新隊員や保護者は、臼や杵を使った餅つきの経験が無いためとても好評。しかもつきたての餅なのでおいしさは格別です。
その餅を食べながら今年一年の抱負を語りあう時間も格別です。

【迫第１団】

迫第一団は県北の登米市迫町に事務局を置く団です。
団名は迫ですが，登米市内全域からスカウトを受け入れており，ビーバー隊，カブ隊，ボーイ隊，ベンチャー隊で構成されます。
各隊は月２回程度の活動を行っており，人数は多くはありませんが，アットホームな団です。
コロナ禍以降，現在ボーイ隊及びベンチャー隊はソロキャンプに取り組んでいます。これまではキャンプといえば，みんなでテントに泊まり，大きな鍋でみんなのご飯を作っていました。
しかし，コロナ感染拡大予防上は，集団でのキャンプは適切ではないことから，キャンプ自体は隊として行うものの，調理は材料も自分で用意し自分で作る，テントは一人一張りとしました。
料理は人任せにせず，テントは自分で管理することになるため，スカウトの自主性向上につながるように感じます。

～ スカウティング 応援団 ～

ボーイスカウトって楽しいよね！

総務委員会、健康安全委員会、組織拡充委員会、広報委員会
特別委員会、プログラム委員会、指導者養成委員会
トレーニングチーム、コミッショナー、維持財団

【総務委員会】

総務委員会は，今年度，宮城県連盟の組織再編により新たに設置された委員会です。

持続可能な組織を目指し，団活動の効果的な支援と確実な社会貢献の実施に向け、県連盟の在りようを再構築するために必要な検討を行ってまいります。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

【健康安全委員会】

健康安全委員会ではスカウトが楽しい活動を展開するための支援として、危険のない活動環境の提供を目的とした、安全で安心できる活動のスキル向上の場と情報の提供をしてまいります。

９月に開催した「救急法講習会」にはコロナ感染を強く警戒した中、スカウト10名が参加、NPO法人「防災士みやぎ」から講師3名の協力を得、「ボーイスカウト救急法」について指導を頂きました。

また、コロナウイルス感染拡大防止を図るため、各活動において「三密の防止」「マスクの着用徹底」の実践「活動参加事前シート」の活用によりスカウトと家庭との連携を進めております。

【組織拡充委員会】

組織拡充委員会では加盟員減少に歯止めをかけるべく、今年度からスタートしました。

コロナ禍で始まった文科省の委託事業「ワクワク自然体験」を関係委員会とともに支援し、また日本連盟HPの利用を推進し、各団HPやSNSでの発信を促進します。

【広報委員会】

広報委員会は、昨年度まで組織拡充広報委員会でしたが、今年度から広報委員会として独立しました。活動については、これまでと同様に「スカウトみやぎ」の発行と県連ＨＰ等の運用をおこなっていきます。

また、新たな活動としてSNSを広く活用し、加盟員以外の方々へスカウト活動の素晴らしさを発信していきます。

宮城県連盟のＨＰ
ご覧下さい

100 YEARS OF SCOUTING IN JAPAN
1922 - 2022

【特別委員会】

ジャンボリー等への派遣や県連キャンポリーなど、行事実施に関わる支援と国際交流の推進を担当しています。

現在、各隊で実施しやすい国際交流プログラム作成に取り組んでいます。

【プログラム委員会】

各部門の進歩制度への取り組み支援、各種派遣プログラムへの参加支援やフォーラム等の開催、参加型イベントの開催支援などスカウト活動を活性化させるのがこの委員会の役務です。

【指導者養成委員会】

指導者養成委員会は、指導者の資質向上・スキルアップを目指し各種研修所や定型外訓練の開設、スカウトセミナーの開設等を行っております。

今年度は定型外訓練を実施し、スカウトセミナーを2回予定しております。

【トレーニングチーム】

宮城県連盟トレーニングチームは、日本連盟リーダートレーナー4名・日本連盟副リーダートレーナー3名、トレーニングチーム員６名（トレーナーOB2名）・準トレーニングチーム員５名で構成されているチームです。

指導者養成委員会・コミッショナー部門と協同して定型（外）訓練や個別支援など指導者養成の実務を担当しています。

【コミッショナー】

より「安全で楽しいスカウティング」を推進するために、指導者のラウンドテーブルや特別講師を招いての研修会、県教育庁事業と協働した学習会等を開催しております。

～Scouting Never Stops！～

【維持財団】

本財団は、昭和51年4月に財政基盤の確立のため設立致しました。以後、毎年ボーイスカウト宮城県連盟に対し助成活動を行ってきております。

その助成金は、日本ジャンボリー等各種大会における宮城県連盟からの派遣等に活用され、また、指導者の研修組織拡張広報活動必要な備品等の整備に使われ、宮城県内のボーイスカウト運動の一助を担っています。

＜維持会員に入会しませんか＞

**次代を担う青少年を育成する
ボーイスカウト活動への助成を目的
とした維持会員に入会しませんか。**

【お問い合わせ先】
一般財団法人ボーイスカウト宮城連盟維持財団
専務理事 和田剛和
電話 090-3364-7066
Eメール takekazu@asahi-syokai.co.jp

がんばれ！進級・上進 ここがポイント

ビーバー隊入隊から今年で11年目になる、仙台第1団の新井彩子です。
進級・上進のポイントは、次の4つだと思います。

① まずは行動に移してみる
② 仲間やリーダーを巻き込んで一緒にチャレンジする
③ 効率よく
④ わからないことはすぐに聞く

「困難という扉のない壁にでくわした時には、思い出してほしい。最初はそれが高く見えるかもしれないが、近寄って調べて見ると、(略)それが乗り越えれそうだということが分かるだろう。」
　これはベーデンパウエル氏の言葉であり、私が昨年度参加させて頂いた日本連盟の中で最も厳しいと言われている富士特別野営の開村式で隊長がおっしゃった言葉です。
「やってみたい」という意思があるのであれば、ぜひ取り組んでみて下さい。
　隼章まで進級していく中で毎度の様に進級への「大きな壁」を感じていたものの、実際にチャレンジしてみるとその壁が意外と低かったと言うことに気付かされてきました。もし皆さんの中に進級に対して「難しそうだ」「自分にできるのだろうか」と不安に感じている方がいるのであれば、とにかくチャレンジしてください。行動するのみです！私は今富士章を目指しています。共に頑張っていきましょう。
（写真は、世界スカウトジャンボリーと、富士特別野営の様子）

仙台第1団ベンチャー隊　新井　彩子

進級上進に向けてクリアするためのアドバイス

　現在私は隼スカウトとして、富士章取得を目指しています。そこで今までボーイスカウト活動の進級においてアドバンテージとなったことを二つ紹介します。
　まず、**進級に関連した目標があった**からだと思います。ボーイスカウト活動において進級は自分の意思に委ねられます。
　そんな中、私にはアメリカでのジャンボリーに参加したいという思いがありました。その大会に参加・楽しむためにはそれに見合った技能が必要だと感じ、進級に向けてボーイ隊の一年目から勉強の息抜きにコツコツと取り組みました。その結果が進級に結び付いたと思います。
　また、ベンチャースカウトに上進してからは、団や地区という縛りがなくなり、**同じ目標の仲間とともに競い合いながら活動**できるようになったことも、進級上進への強みの一つとなりました。これまで自分たちがしてきた活動という固定観念に囚われず、それぞれの課題に取り組みながら、生き生きした活動を今後も続けて行きたいと思います。
　最後に、後輩スカウトの皆さんにはそれぞれの**課題に対してプランを立て自分の意思を持ち、活動に取り組んで**いけばチャンスもやってくると思います。頑張ってください。
（写真は、隼授与式に千葉県コミッショナーから授与されているところです）

泉1団ベンチャースカウト　木幡明

ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび　開催しました！ 親子で作る「カマド」でごはん

　10月18日（日）白石第1団主催、白石市教育委員会後援でワクワク自然体験あそびを南蔵王野営場で開催しました。
　新型コロナ対策のため10グループ限定での募集となり非加盟員参加者24名での実施となりました。
　午前中はカマドで飯ごうを使ってご飯を炊く活動でしたが、マッチを点けるところから大騒ぎで盛り上がっておりました。
　昼食後に子供達には火起こし・ロープ結び・長さドンピシャなどの活動を体験してもらいながら、最後には震源地ゲームを全員でやりました。
　並行して保護者の方むけには入団説明会を行い、次回集会の体験案内をして現地解散となりました。
　検温・マスク・消毒など新型コロナ対策をしながらの活動でしたが今年は新入団勧誘イベントをなかばあきらめていた中、文科省の予算をつけていただいた関係各位の皆様に感謝の一言であります。

白石第1団団委員長　佐藤治雄

わくわく！ ドキドキ！ボーイスカウト 楽しかったなぁ あんなこと、こんなこと

岩手で「ちかい」をたててから間もなく70年、東北4県の団を移籍しながらのスカウト活動は楽しかったことだらけ。中でも、中学2年に参加した第1回日本ジャンボリー（1NJ軽井沢）は格別でした。煙たなびく浅間山の麓でのキャンプの素晴らしさに感激し、この時の感動が私のスカウト活動継続の原動力となっております。

宮城415団（松島町）ではスカウト全員と一緒に6NJ（北海道千歳原）に参加、帰隊後スカウトは松島湾の無人島「馬放島」での隊キャンプを自ら計画し、島までの舟や非常連絡用の無線機の手配など全てを準備をし私はただ見守るだけでスカウトの成長が感じられて大変嬉しかったことが今でも思い出されます。

6NJ派遣団の輸送は仙台港から苫小牧港まで就航されたフェリーで、往路に津軽海峡付近を通過する船上で「海峡祭り」を派遣団が開催し、派遣団本部員のパワーに驚かされたものでした。

県連盟NJ派遣を担当してから20余年、12NJから17NSJまで毎回参加、多くのスカウトをNJに参加させたいという私の思いを各団の指導者の皆様にご理解いただき、価値あるNJ派遣にすることが出来ましたことは私のスカウト人生で最高の喜びです。

特に郷家照夫派遣団長の発案で14NJから毎回発行の感想文集に「NJには参加したくなく隊長や親に無理やりすすめられ参加したが、面白くて楽しくて参加して良かった。次回も是非参加したい」のスカウトの感想が多く、NJの魅力をスカウトに体験させることが出来たと嬉しくなり、派遣準備や感想文集編集の苦労も吹っ飛びました。

隊長は日頃からスカウトにNJの意義や参加の魅力などを話して聞かせることがスカウトの進歩に繋がると思っております。

名誉会議議員（塩釜第１団） 横澤 繁

私にとってのスカウト活動

ボーイスカウト以上のスカウトと指導者の標語である「そなえよつねに」。地元放送局でラジオ番組の制作に携わる私にとって、スカウト活動で出会い、現在の仕事に欠かせない意味を持つものと感じている。東日本大震災発生から10年を前に「今」という時はあらためて生活における日々の「備え」、ライフラインとしての放送の役割を果たすための「備え」を見つめ直すタイミングなのかもしれない。私にとって「そなえよつねに」は「原点回帰」を促すものであり、宮城県で生きる誰もが日々心に感じていくべきものだと考えている。そして、ボーイスカウト活動が貴重な「備え」の積み上げにつながっていることを思わずにはいられない。

泉第2団　長南昭弘

【お知らせ】

○おめでとうございます　祝受賞〔令和２年度〕

☆**文化の日表彰（宮城県知事）**ボーイスカウト運動による教育文化功労
和 田　岑 生　（県連盟名誉会議議員、仙台第１団　団委員長）

☆**教育功績者表彰（宮城県教育長）**ボーイスカウト運動による社会教育功労
今 野　利 夫　（県連盟名誉会議議員、仙台第２団　育成会会長）

☆**ボーイスカウト振興国会議員連盟表彰**
三 枝　慎　（泉第1団 カブスカウト隊隊長）

☆**日本連盟功労賞　たか章**
東海林 良 雲　（県連盟副連盟長）

☆**日本連盟功労賞　かっこう章**
高 山　雅 光　（県連盟副理事長、県連事務局）

☆**日本連盟褒状[隊長表彰]**
佐 藤　憲 明　（仙台第1団BS隊長）
鷲　　敏　之　（仙台第37団BS隊長）

■令和2年度年次連総会が10月11日（日）
塩釜市魚市場にて開催されました。

■編集後記

「スカウトみやぎ53号」はいかがでしたでしょうか？　知っているようで知らないボーイスカウトの事。同じ県内で活動している仲間は何処にいるのか？「ちかい」と「おきて」の実践のためどんなことをしているのか？また、安全にスムーズに進むよう応援してくださる方々がたくさんいらっしゃることを知っていただきたいと思い企画しました。

ボーイスカウトの良さ･おもしろさを知っていただくだけでなく、参加したい。応援したい。誘ってみよう。続けてみよう。という気持ちになって頂ければ幸いです。

広報委員会　副委員長　スカウトみやぎ担当 高橋修

■発行日　令和３年１２月　１日
■発行　日本ボーイスカウト宮城県連盟
〒985-0841　多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号
（宮城県多賀城分庁舎）
電話 022-355-6265
■発行人　日本ボーイスカウト宮城県連盟
理事長 菅野五郎
■編集人　日本ボーイスカウト宮城県連盟
広報委員会委員長 佐竹孝喜